第一〜三巻
【朝鮮読書連盟（朝鮮総督府図書館内）】／【朝鮮総督府図書館】

資料

【一巻】284 頁

1『読書』第 1 巻 第 1 号
（朝鮮総督府学務局社会教育課内 朝鮮読書連盟、1937 年 1 月 25 日）

1『読書』第 1 巻 第 2 号
（朝鮮総督府学務局社会教育課内 朝鮮読書連盟、1937 年 3 月 5 日）

1『読書』第 1 巻 第 3 号
（朝鮮総督府学務局社会教育課内 朝鮮読書連盟、1937 年 5 月 20 日）

1『読書』第 1 巻 第 4 号
（朝鮮総督府学務局社会教育課内 朝鮮読書連盟、1937 年 8 月 20 日）

【二巻】314 頁

1『読書』第 1 巻 第 5 号
（朝鮮総督府学務局社会教育課内 朝鮮読書連盟、1937 年 9 月 15 日）

1『読書』第 1 巻 第 6 号
（朝鮮総督府学務局社会教育課内 朝鮮読書連盟、1937 年 11 月 1 日）

1『読書』第 2 巻 第 1 号
（朝鮮総督府学務局社会教育課内 朝鮮読書連盟、1938 年 1 月 20 日）

1『読書』第 2 巻 第 2 号
（朝鮮総督府学務局社会教育課内 朝鮮読書連盟、1938 年 3 月 20 日）

【三巻】300 頁

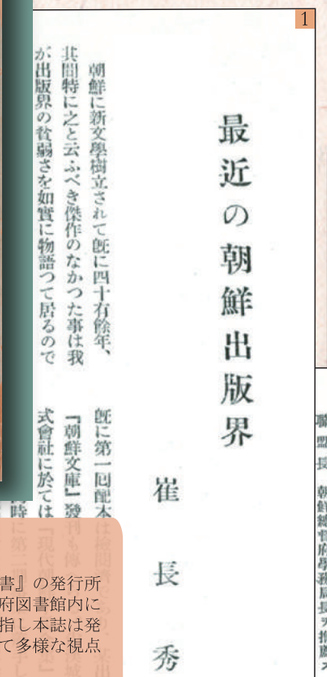
1『読書』第 2 巻 第 3 号
（朝鮮総督府学務局社会教育課内 朝鮮読書連盟、1937 年 6 月 20 日）

1『読書』第 2 巻 第 4 号
（朝鮮総督府学務局社会教育課内 朝鮮読書連盟、1937 年 8 月 28 日）

1『読書』第 2 巻 第 5 号
（朝鮮総督府学務局社会教育課内 朝鮮読書連盟、1938 年 11 月 15 日）

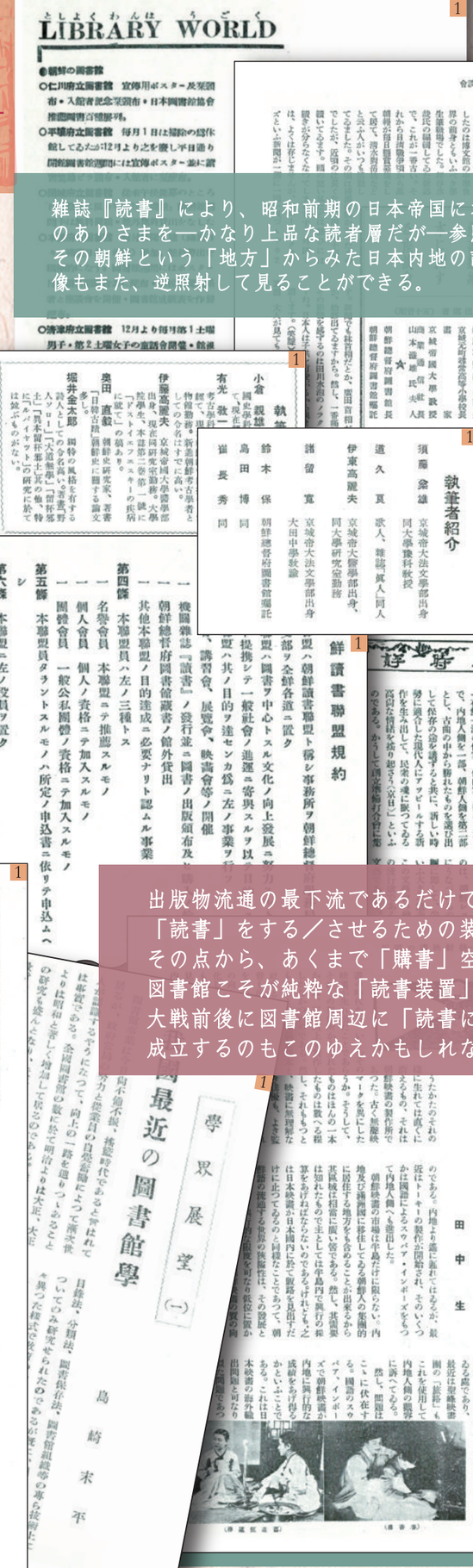
1『読書』第 2 巻 第 6 号
（朝鮮総督府学務局社会教育課内 朝鮮読書連盟、1938 年 12 月 15 日）

2『朝鮮総督府図書館要覧　大正 15 年 7 月現在』
（朝鮮総督府図書館、1926 年）

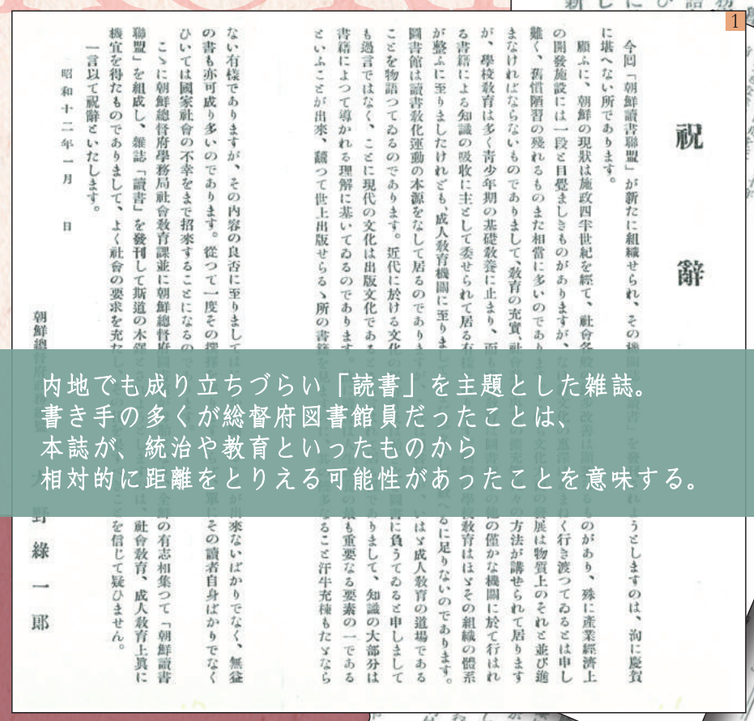


『読書』

朝鮮総督府学務局社会教育課内に『読書』の発行所は置かれ、執筆者は主として朝鮮総督府図書館内に求められた。読書による社会教育を目指し本誌は発刊されたが、いま現在、その枠を超えて多様な視点から解読が可能となる。



雑誌『読書』により、昭和前期の日本帝国における「地方」読書のありさまを―かなり上品な読者層だが―参照可能となり、またその朝鮮という「地方」からみた日本内地の読書・図書館の全体像もまた、逆照射して見ることができる。



内地でも成り立ちづらい「読書」を主題とした雑誌。
書き手の多くが総督府図書館員だったことは、
本誌が、統治や教育といったものから
相対的に距離をとりえる可能性があったことを意味する。

出版物流通の最下流であるだけでなく、図書館とはそもそも「読書」をする／させるための装置である。
その点から、あくまで「購書」空間である書店と比べても、図書館こそが純粋な「読書装置」と言ってもよい。
大戦前後に図書館周辺に「読書について」の雑誌が成立するのもこのゆえかもしれない。

『読書』総目次（抄）

祝辞　大野　緑一郎（朝鮮総督府政務総監）／富永　文一（朝鮮総督府学務局長）／金大羽（朝鮮総督府学務局社会教育課長）

図書の防虫策と空気温室度調整法（Air Conditioning）林 靖一（鉄道図書館主事）

各社競争新聞科学（しにものぐるひスピードあらそひ）

名家書斎巡礼（其一）望漢盧記「文学博士藤塚鄰氏蒐書之顛末」　田中 生

朝鮮関係図書紹介（一）工芸第六十九号「朝鮮工芸号」／私の自叙伝（崔承喜／日本書荘刊）　田中 初夫／T生

〈受験の栞〉昭和十一年秋季朝鮮歯科医師試験問題（第一部）／昭和十一年度朝鮮弁護士試験問題（八月施行）／朝鮮医師試験問題（十月）

附録　朝鮮読書連盟趣意書／朝鮮読書連盟規約／朝鮮総督府図書館外帯出規程

〈広告〉丸善京城支店

民俗と統制　秋葉 隆

書棚はどんなに作ればよいか　佐藤 勝太郎

出版界よ何処へ行く―昨年度新刊統計発表・パンフレット汎濫・物価騰貴　向井 謙三

文化映画の話―警務局図書課映画検閲室にて 検閲主任 岡田順一氏に聞く　T生

朝鮮の書籍　古川 兼秀（朝鮮総督府警務局図書課長）

朝鮮学海の一瞥　李 在郁

あゝそれなのに　それなのに　流行歌レコード検閲の話（はやるのはあたりまへでせう）―警務局図書課検閲室にて 検閲主任 岡田順一氏に聞く　T生

〈新聞と紙〉朝鮮の新聞研究／紙価高騰

朝鮮の映画配給　T生

戦時体制下の消費統制　大西 太郎

慶州と扶餘　堀井 金太郎

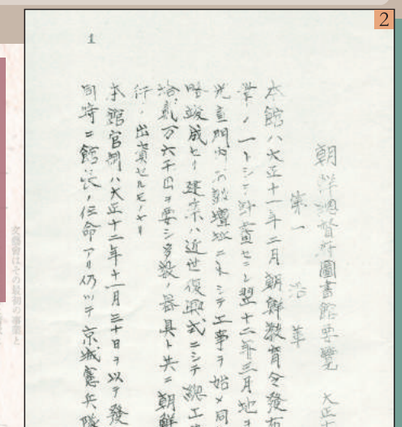
前間恭作氏の「朝鮮の板本」を読む

モーリスクーラン朝鮮書誌序論　マシー・ロイズ女史英訳／小倉 親雄訳注

朝鮮の民間信仰に就て（完）朝鮮のシヤマン即ち巫覡＝シヤマニズム的習俗＝結婚、葬礼、風水、祭事＝シヤマニズム的理想より来れる習俗の種々　奥田 直毅

朝鮮の古典を読む上に心得べきこと　今村 螺炎生

朝鮮読書連盟（個人）新会員募集



朝鮮総督府図書館

最も注目されるのは、その意欲的な書誌活動と対外活動である。館報『文献報国』の発行、朝鮮読書連盟の機関誌『読書』及び朝鮮図書館研究会の機関誌『朝鮮之図書館』の編纂発行は、朝鮮図書館界の理論的水準の向上と活性化に大きな役割を果した。また1935年からは「朝鮮総督府図書館事業会」を組織し、各種の社会教育事業を推進した。本館は解放直後「国立図書館」と改称されたが、1963年の図書館法の制定により「国立中央図書館」となり、名実共に韓国の中央図書館として今日に至る。